

氏 名 吉儀 淳
学位記番号 医博乙第247号
学位授与年月日 平成18年10月4日
審査委員 主査 教授 宮崎 康二
副査 教授 津本 周作
副査 教授 坂野 勉

論文審査の結果の要旨

申請者らは、ヒト子宮外妊娠未破裂例の早期診断におけるMRI T2*強調像の臨床的有用性を検討した。1999年から2001年の間に子宮外妊娠を疑った25例のうち、腸内ガス像の影響で判定不能であった1例を除外した24例を対象とした。T2*強調像は出血後急性期から慢性期の血腫を捉える事ができる短時間で実施可能な非侵襲性の優れた検査法であり、現在は頭蓋内出血の検査として利用されているが、子宮外妊娠への応用は世界でも報告は見られない。すべての患者からインフォームドコンセントを得た後、造影剤の使用はせず平均20分で撮影を終了した。その結果、子宮外妊娠を診断できなかった例は、血腫形成が見られなかった早期子宮外妊娠例1例のみであり、子宮外妊娠診断に関して感度96%、特異度100%であり正診率は96%であった。以上の事から、MRI T2*強調像は高い感度、特異度を有し、しかも短時間で施行可能な子宮外妊娠の優れた非侵襲的検査法である事が明らかとなった。

本研究は、正診率の高い早期診断法の確立が望まれている子宮外妊娠診断の分野において、MRI T2*強調像が現在行われている非侵襲的検査法である内診、尿中hCG定量、経膈超音波検査を上回る高い正診率を示す事をはじめて明らかにした。今後、本法の導入により侵襲的な診断的腹腔鏡実施数を減少させ、子宮外妊娠の早期診断における正診率を飛躍的に向上させる臨床面で画期的研究と考えられ、学位授与に値すると判断した。